

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ 島田 メグミ めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育機関、中等教育機関、高等教育機関など）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。また、教育の方法も常に変化し、新しい教材が次々と開発されている。本科目では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。		
到達目標	<p>前期は、日本語教育について多角的に考察し、日本語教育の方法を広く理解した上で、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を選択できることを目標とする。また、歴史や社会環境と教育の関係を把握し、今後の日本語教育のあり方を考察できるようになることも目標とする。</p> <p>後期は、日本語教材の歴史・変遷を把握した上で、教材を多角的に分析できる力を身につけ、適切に使用することができるようになることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基本教材1を読んで、日本語教育と歴史の関係を整理する。さらに、現在の学習者のニーズを考慮した上で、これからの日本語教育のあり方について考察する。</li> <li>基本教材1を読んだ上で、地域・対象者を1つ設定して、適切な日本語教育の実践例について具体的に検討する。</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基本教材2を読んで、日本語教育において教科書を使用することのメリット・デメリットを把握し、教科書使用の際に検討すべき点を考察する。</li> <li>基本教材2の教材分析のポイントを参考に、日本語教科書を分析する。</li> </ol>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：6月末</li> <li>レポート課題2 締切：9月課題提出締切日</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：11月末</li> <li>レポート課題2 締切：1月課題提出締切日</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性）
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	ピア・レスポンス、教師によるフィードバックをもとにレポートを完成させることが求められるので、ピア・レスポンスへの参加、余裕のある草稿送付を心がけること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 遠藤織枝（編） 教材名： 『日本語教育を学ぶ その歴史から現場まで [第二版]』 （三修社，2011年） ISBN:978-4-38-405649-5 2,400円+税
	日本語教育の状況，言語学，異文化コミュニケーション，指導法，評価法，教授法，社会，歴史などの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場の体験談や現地レポートが多く掲載されており，日本語教育の多様性が理解できる。
参考図書	国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2012年度日本語教育機関調査より』 （くろしお出版，2013） ISBN: 978-4-87424-608-5 2,000円+税
履修上のポイント	基本教材1は日本語教育の基礎的内容なので，いずれの章も十分理解してほしい。第1章の「日本語を学ぶ人・教える人」の海外の情報は，国際交流基金の2009年度の調査資料をもとに執筆されているので，最新の2012年度の情報を参考図書や国際交流基金のホームページで確認してほしい（ <a href="https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey12.html">https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey12.html</a> ）。
レポート課題1	第1章，第8章，第9章を読み，歴史がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し，さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（3,000字～4,000字） <b>留意点：</b> 歴史的事実と日本語教育の関係を把握して，現在における学習者のニーズの変化を理解して，考察すること。
レポート課題2	第1章，第4章，第5章，第6章を読んだ上で，地域・対象者を1つ設定して，どのような日本語教育を実践するか，コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状 2012年度調査の結果をニーズ把握の参考にする。（3,000字～4,000字） <b>留意点：</b> シラバス，教材，具体的な活動（1例），評価の方法を含める。第1章の体験談，第6章現地レポートを参考にすること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 吉岡英幸・本田弘之 教材名： 『日本語教材研究の視点 -新しい教材研究論の確立をめざして』 （くろしお出版，2016年） ISBN:978-4-87-424716-7 2,400円+税
	日本語教材を多角的な視点から検討した教材であり，日本語教材研究の概要，現状が把握できる。日本語教材がどのように変遷したか歴史的な検討，日本語教材の多角的な視点からの分析，どのように使用されるのかという分析が行われている。
参考図書	『みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊』（スリーエーネットワーク，2012） ISBN:978-4384056495 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』（スリーエーネットワーク，2013） ISBN:978-4883196463 各2,500円+税
履修上のポイント	日本語教材を分析することにより，日本語教育の方法や内容，さらには習得を理解することが可能であるため，基本教材2を通して教材分析の方法を理解すること。
レポート課題1	第4章，第5章を読んで，日本語教育において教科書を使用する際の利点と問題点を整理した上で，教科書を選択・使用する際に検討すべき点について論じる。（3,000字～4,000字） <b>留意点：</b> 第7章，第9章を参考にすること。
レポート課題2	参考図書を含む日本語教科書1冊以上を対象に，第4章，第5章，第9章のいずれかの分析のポイントを参考に，教材を分析する。（3,000字～4,000字） <b>留意点：</b> 受身など文法項目の取り上げ方（第4章），コーパスとの比較（第5章），導入の方法（第9章），いずれかの視点から分析すること。